

平成19年度 文化庁芸術祭賞・ 関西元気文化圏賞

合同贈呈式 (平成20年1月24日
ホテルニューオータニ大阪)

「^{もが}殯の森」の河瀬監督に大賞を贈呈

関西元気文化圏推進協議会(代表委員・秋山喜久関西広域機構会長)は、文化を通して関西から日本を明るく元気にした人や団体に対し、感謝と一層の活躍を期待して毎年「関西元気文化圏賞」を贈っている。今年はその第5回。贈呈式は文化庁芸術祭贈呈式と合同で大阪で開催され、池坊保子文部科学副大臣や青木保文化庁長官らが列席のもと大賞ほか各賞が贈られた。

大賞は、奈良を拠点に活動する映画作家・河瀬直美氏に贈られた。河瀬氏は、奈良市郊外の山村を舞台に認知症老人と介護福祉士の心の交流を描いた「殯の森」で、昨年5月の第60回カンヌ国際映画祭コンペティション部門での、グランプリ(審査員特別大賞)を受賞。日本人による同賞受賞は17年ぶり、さらに日本人女性初という快挙が多くの人に感動と希望を与えたとして、その功績が讃えられた。

また、同協議会特別賞は、国宝・彦根城築城400年祭実行委員会に、ニューパワー賞はバイオリニストの神尾真由子氏、京都国際マンガミュージアム、和歌山県立紀北工業高等学校生産技術部に贈られた。



河瀬直美氏受賞スピーチ(一部)

関西は面白いところです。大阪、奈良、京都、和歌山など、それぞれカラーが違う。そうした特徴ある地域が手をつなげば、もっと面白くなるでしょう。

かつて河井隼雄先生は、私の映画を見て「目に見えない日本の文化を表現している」とおっしゃってくださいました。今後もそれを続けていければいいなと思っています。

カンヌでは、関西や奈良のことはほとんど知られていません。そこでもっと知ってもらうために、2010年の平城京遷都1300年を機に、奈良で国際映画祭ができればいいなと思っています。さらにそれを継続させて50年経てば、奈良は世界に誇れる文化都市になっている。そんな日を夢見て、縦横のつながりを編み目のように広げ、世界に発信していきたいと思っています。ありがとうございました。



関西元気文化圏とは —

平成15年(2003年)3月17日発足のプロジェクト。提唱者は当時文化庁長官の河合隼雄氏。東京一局集中を是正し、文化や歴史の蓄積のある関西から、文化力で日本に元気を発信していこうという趣旨のもと、関西の経済団体や地方公共団体の代表者による「関西文化圏推進協議会」が設立された。文化庁と

関西の自治体や企業、文化団体など、官民の垣根を越えた積極的な協働体制のもと、コンサートやシンポジウムなど多彩な文化活動を展開している。平成20年1月現在の参加府県は、福井、滋賀、京都、三重、奈良、和歌山、大阪、兵庫、徳島の2府7県。